

令和5年度第三者評価 改善状況報告書

令和6年3月31日

施設名	港区立虎ノ門高齢者在宅サービスセンター（通所介護）	施設所管課	保健福祉支援部 高齢者支援課
所在地	港区虎ノ門1-21-10	指定管理者	医療法人財団 百葉の会

改善すべき指摘内容等	対応事業者 (共同事業者の場合記入)	令和6年3月までの改善状況等 (指定管理者記入欄)	令和6年4月以降の取組予定 (指定管理者記入欄)	所管課確認欄 (施設所管課記入欄)
感染症や災害に関する事業継続計画（BCP）を現在作成中で、今年度中には完成という予定で進めている。1月には法人内でBCPに関する研修を予定しており、内部研修も3月中に実施することを計画している。今年度の事業所目標の一つである「最高のおもてなし」に対して、「災害後の運営継続」を挙げ、BCPに沿ったシミュレーションの実施を掲げている。介護事業所においてはBCPの策定が義務化されており、期限として2024年3月までに策定が求められているため、早期の完成と職員への周知徹底が望ましい。		BCPに関する研修を終え、マニュアルを完成させた。また、自施設での職員研修及び訓練も3月までに実施している。	完成したマニュアルは内部の検討委員会で見直し、更なる更新を行う。 BCP研修、訓練を計画し実施していく。	策定したBCPについて、施設内で周知し、訓練を継続するように指導していく。
今年度の事業所目標の一つとして、ボランティアとの交流の継続を掲げている。コロナ禍前は、ボランティア団体に実際に来てもらっていたが、現在は月1回リモートによる交流を実施している。9月からは困りごとを傾聴し、必要な支援につなげる介護相談員の訪問を再開している。また、12月中旬には書道ボランティア1人に来てもらい、対面での交流を再開した。今後も感染症対策を講じながら、ボランティアの人数を増やして実施していきたいとの思いがあり、活動の拡大が望ましい。		介護相談員の受け入れは継続して行っている。ボランティアの受け入れは、対面では書道ボランティアの他、バイオリン奏者の方々を受け入れも行った。	感染対策を十分に行い、複数でのボランティアの受け入れは検討する。社会福祉協議会での会議に参加し、ボランティアの活動状況を把握、傾聴し、大正琴や折り紙等コロナ前に来てもらっていたボランティアの受け入れを進めていく。また、介護相談員に関しては、1対1の対面ではなくフロアでの交流も検討していく。	引き続き、十分な感染症対策を講じたうえで、ボランティア受け入れを継続するように指導していく。
今年度の目標の一つである専門職による地域貢献の取り組みとして、地域住民向けの健康増進チラシを配布している。同法人が運営する施設と協働で地域住民向けの企画を実施しており、コロナ禍前は地域住民向けに介護等の知識について講座を実施していたが、コロナ禍以降は、感染症対策のため、テーマを決め、リーフレットを作成し情報提供している。以前は靴をテーマにしていたが、今年度は排泄用品について情報提供する予定で、現在作成中である。感染症の動向を見ながら、今後も包括的な支援の取り組みや活動を継続していくことが望ましい。		排泄用品についてのリーフレットを作成した。リーフレットは虎ノ門いきいきプラザに置いてもらい、地域住民の方々へ情報提供を行った。	コロナ禍前に実施していた健康サロンを行っていただけるよう感染状況を見ながら検討していく。看護師、理学療法士、社会福祉士、管理栄養士、介護福祉士等多職種で地域の方々に情報提供できるよう計画し、実施していく。	引き続き、講座等を通じて社会資源に関する情報の発信を継続するように指導していく。